

【あいネット（就労準備支援室）平成25年度ご利用状況のお知らせ】

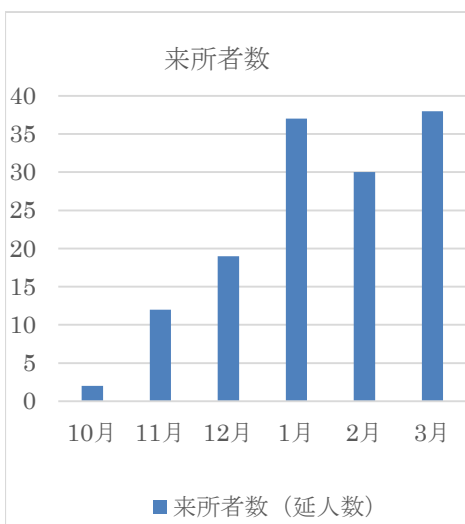
平成25年10月1日から始まりました『生活困窮者自立促進支援モデル事業』による、あいネット（就労準備支援室）のご利用状況を月別に集計しました。

平成25年度を振り返って

事業を平成25年10月より立ち上げ、平成26年3月末日までの半年間において、合計241名様に「ご利用者頂きました。（来所者数138名および、電話・メールによる相談者数73名の合計）」

相談内容としては、就労についてのご相談が最も多く以下、家計に関するご相談、家族関係に関する順となっております。

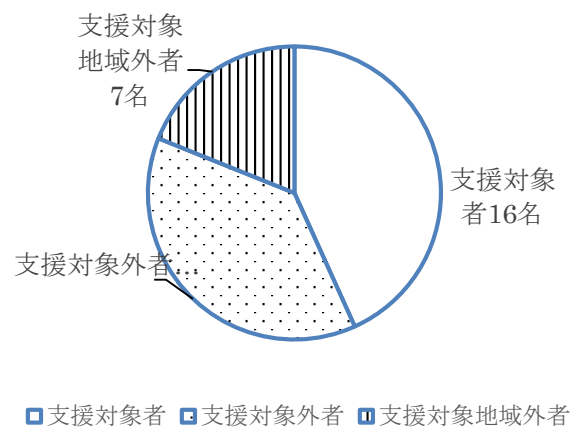
また、「ご相談者に対し、就労と家計のご相談といった様に、複数のご相談をされる方が多いことも特徴の一つです。」



支援状況別の利用者様の内訳は、以下の通りとなっております。

- ① 支援対象者（生活困窮者自立支援モデル事業登録者）— 16名
- ② 支援対象外者（現在家族の支援等があり、生活困窮状況にはないが、就労が困難な状況にあり、近い将来において、生活困窮に陥る危険性のある方）— 14名
- ③ 支援対象地域外者（生活に困窮しているが、柏市周辺の市町村にお住まいの方/我孫子市5名、守谷市1名、取手市1名）— 7名

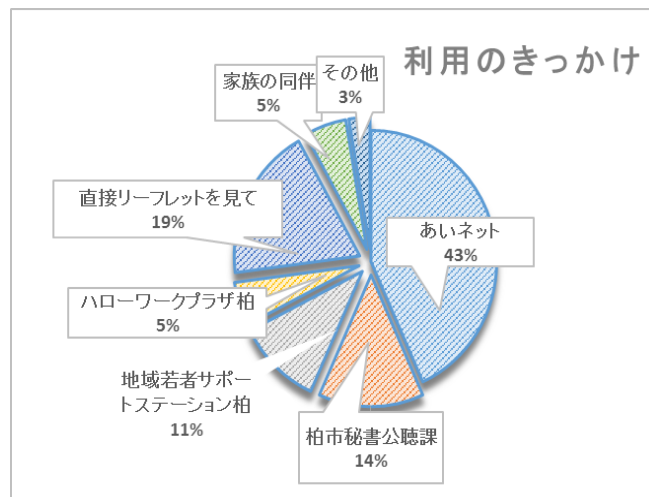
対象者別利用者数



就職・進学状況について

企業への面接を受けられた方は、平成25年12月、1月に1名ずつでしたが、2月に5名、3月に4名の方が面接を受けられ、6名様が就労中、1名様が大学進学予定となっております。

ご利用のきっかけについて



今後の支援活動について

- ① 就労に向けた円滑なコミュニケーションを学ぶ機会を設ける為に、コミュニケーション講座等のプログラムを個別に実施していきます。
- ② 家庭に居場所のない方のために、月2回（隔週）フリースペースとして、就労準備支援室を開放しています。
- ③ 求人情報の提供、職業紹介だけでなく、ご利用者様のご家族も含めた、就労相談、家計相談等の各種相談をお伺いして、ご利用者様の将来も見据えた支援をしていきます。
- ④ 関係各所の皆様との連携を通して、支援サービスの向上により、ご利用者様にとって、より利用しやすい施設の運営を目指してまいります。

造園、グリーンエクステリア科の職業訓練見学に行ってきました。

就労準備支援室より

春の足音が聞こえてくる3月3日に、都立職業能力開発センター（江戸川校）に訪問させて頂きました。

「職業能力開発センターはどんな建物なのだろう?」「どんな雰囲気なのだろう?」「どんな人が学んでいるのだろうか?」— と思いつつ、職業訓練の見学をさせて頂きました。

今回訪問させて頂いたのは、造園、グリーンエクステリア科の施設でした。初めは小中学校の工作室を想像していましたが、実際に目にしたのは、郊外の閑静な住宅街にあるガーデン、バーベキューが出来そうな庭で、実践的に学べる環境に驚かされました。

実習室は、屋内、屋外実習室があり、洋風、和風、和洋折衷とあり、実習生の作品とは思えないほどの出来栄でした。



そして、もう一点驚かされた点が、女性の職業訓練生の割合が高い事でした。丁度、見学をさせて頂いた際には、左官、塗り壁の練習中で、生徒さんの真剣なまなざしが、とても印象的でした。色使いや、模様様の濃淡の付け方に、女性の細やかさが出ていました。

次の教室は、CADが学べるPC実習室で、PCが整然と並べられていて、先程の緑とは対照的な雰囲気を感じました。

こちらの学校では、現場の造園施工以外に、PCを使ったエクステリアの設計も学べ、庭の3Dのイメージも確認出来るとの事でした。



最後に、純和風の日本庭園を訪問させて頂き、日本庭園の枯山水や茶庭もあり、京都のお寺の庭を思い起こさせる作品でした。2時間程の訪問でしたが、帰りの道路の街路樹、公園の緑、一軒家の庭も含め、草木や花などの緑が、私たちの暮らしに欠かす事の出来ない癒しを与えてもらっている事を感じました。

緑は私達の身の回りの生活にうるおいや安心を与えてくれるだけでなく、鳥や虫など動物達の貴重な生息場所ともなりうる事も感じました。加えて言うならば、最近話題となっているPM_{2.5}等の大気汚染や、地球温暖化や異常気象の浄化も大きく貢献しているとも思いました。

普段当たり前過ぎて見過ごしがちな、植物をはじめとした緑、もうすぐ咲き乱れる春の桜や花々を楽しみに、皆さんも公園に一步踏み出してみませんか。

「障害者を企業の確かな戦力に導く」



平成 26 年 3 月 14 日に地域意見交換会がありました。今回は東京都千代田区にある NPO 法人障がい者就業・雇用支援センター理事長である秦氏より講義がありました。秦氏は元々リクルートで障害者雇用に長く関わってこられた方で、とても興味深いお話を聞く事が出来ました。(※以下は秦氏の話を抜粋して掲載)

① 組織はジグソーパズル

企業側は企業の経営活動の一つに障害者雇用がある事を認識すべき。企業が障害者にも対応できるように業務を標準化する事は経営の合理化を推進し、コストセーブへつながるため、結果として経営上のメリットとなる。また、仕事の中には本業とは少し離れた仕事が存在しており、そこに多大な労力と時間をかけている場合がある。その少しずれた業務を切り取って障害者の方に業務としてお願いをすると、非常に助かり、効率的に仕事を出来る場合がある。ジグソーパズルのよう、組織として足りない部分を障害者の方に補ってもらおうという考え方がある。

② 日本の国情の変化

日本は少子高齢化が進んでおり、生産年齢人口は減り続け、65歳を超える人口が増加している。このままいくと、日本では働き手が足りなくなるため、ニート、ひきこもり、障害者を労働力としていく必要がある。



2018年には精神障害者の雇用義務化、雇用率引き上げの可能性があり、企業側は精神障害者を積極的に受け入れていく中で障害の理解を深めていく事が重要である。

③ 雇用戦線の変化

大企業の障害者雇用は確実に進んでいるが、中小企業の障害者雇用は進んでいない。そのため、企業全体の障害者雇用は縮小傾向にある。これは産業構造の変化が大きく影響しており、製造業の低迷や海外進出により、中小企業が障害者を雇用する体力がない状況が生まれている。製造業が減ってきた事に伴い、これまでは特に知的障害者の就業場所となっていた製造業において、今後は違った仕事が必要されていく可能性がある。

障害者雇用を考える時、現在の日本が置かれている状況をマクロの視点で見ると感じました。少子高齢化が進む中、「これからは障害者の労働力が必要になる」との秦氏の言葉は印象的でした。送り手（福祉や学校）と受け手（企業）が障害者の特性や能力、課題をきちんと共有し、障害者が魅力を感じる職場をいかに提供していくかがこれからの課題であると感じました。

総合相談～高校での活用のされ方



先日、「千葉県中核地域生活支援センターを活用した生徒支援の在り方」題する研究発表をまとめた文書が送付されました。副題は「高校生

の自立を支援するために」。

「はじめに」では、「高校ではさまざまな外部機関との連携を図っているが、多くは分野別であり、一つの分野だけで解決しない場合に包括的な支援を受けることが難しい。

家庭（家族機能、家族内葛藤、経済状況）が関与していたり、家庭からの協力を得られにくい場合や、対象年齢に制限があるなどである。

高校は高等教育を行う場であるが、前提となる生活基盤の支援は欠かせない。生活基盤が揺らいでいる生徒へ支援を行う機関と適切に連携していることが今の高校に求められている。」とあり、中核センターの特徴として、分野横断、本人に寄り添い支援をつなぐ、相談内容は包括的、アウトリーチを挙げている。

・ 養護教諭が中核センターと連携した事例の種別
経済、家族、病气、障害、虐待といった家庭が抱える多種多様な問題を抱えていること。

・ 活用した理由

24時間365日対応（休日対応）であること、卒業後、中退後の支援に対応できること

・ 活用してよかったこと

学校の枠を超えた支援、休日・夜間の支援、卒業後・中退後の支援、また教職員の意識の変化、

心理的負担の軽減など間接的な利点も挙げられた。

・ 苦慮したこと

学校は進級、卒業といった節目に合わせて支援の方向性を決めようとするが、中核センターは生活を支える支援を目標としているため、時間をかけて生徒や家族との信頼関係の構築からスタートするため、時間がかかった、すぐに対応してくれなかった事例があった。

また、本人が支援を受けることに拒否的な場合は、学校が支援を希望してもつながらない、途切れてしまう結果に終わっている。

・ 中核センターと高校との連携

特別支援学校との連携が最も多く63%、小学校15%、中学校9%、高等学校13%。

・ 事例の種別

発達障害、経済問題、進路が多い。その他の内訳は人間関係の悩み、福祉制度の利用、家出、ボランティア紹介、余暇活動。

・ 中核センターから学校への要望

早期に相談してほしい、中核センターの活動を広く認知してほしい、普通学級との情報交換が不足など。

◎今後の課題

貧困や虐待などの問題は、親から子どもへ、更にその子どもへと世代を超えて繰り返されることがある。生徒の自立を支援するために、教職員が生徒の生活背景に対して関心を持ち家庭問題などの生活状況を把握していくことも必要である。そして、学校でできる支援の

限界を見極め、学校でできない支援は中核センターを含めた外部機関を活用することが必要である、と結ばれている。

* * * * *

中核センターは保健所圏域ごとで、一市のところもあれば町村を多く抱えているなどの市町村数や人口の違いや、地域性の違いもあるが、毎月の連絡協議会例会や隔月のコーディネーター部会を開催しており、あいネットもその一員である。子ども・若者支援として学校との連携は必要なものだが、認知度はばらつきがあると感じている。間接的な利点として心理的負担の軽減ということが挙げられていることも重要な観点だと感じる。中途退学も多い中で必要な機関が連携して行うことで、少しでも本人支援につながることを望みたい。



お知らせ ◇こちらのコーナーへ掲載希望の方は、あいネット（電話：04-7165-8707 FAX：04-7165-8709）まで

講演(イベント)名	日時	場所	費用	申込/問合せ先他
2014 協同集会 in 千葉 地域に新しい力を ～共に生き・命をつなぐ協同～	2014年 4月20日(日) ・全体会 10:00～12:10 ・分科会 13:10～17:30	千葉大学(西千葉館パス) ・全体会 法経学部棟 2階105講義室 ・分科会 法経学部棟・人文社会科学系総合研究所	1,000円 学生・障がい者は無料	ワーカーズコープ 東関東事業本部 住所：千葉県千葉市中央区要町12-8 TEL：043-308-0620 FAX：043-308-0690 E-mail： hgskntub@roukyou.gr.jp